

4～5日、モルドバ・EU協力理事会(於ブリュッセル)

A. 主な動き

1. 内政

地方選挙に向けた動き

- ・3日、ゴーチャ自由民主党第一副党首は、キシノウ市長選挙に無所属候補として立候補することを表明。
- ・4日、ゴーチャ自由民主党第一副党首は、自由民主党が共産党に接近する現実的な危険性があること等を理由に自由民主党を離党することを表明。これに関し、フィラト首相(自由民主党党首)は、同第一副党首の離党及びその際の発言はフィラト首相に対する直接的な攻撃である旨非難。ルプ大統領代行は、同第一副党首の離党はA EI全体に関わる問題である旨発言。
- ・5日、中央選挙管理委員会は、地方選挙における立候補者の受付を終了、キシノウ市長選挙には候補者15名が登録。
- ・6日、フィラト首相(自由民主党党首)は、キシノウ市長選挙におけるボディウ官房長官(自由民主党所属)の推薦取り下げを公表、自由党推薦のキルトアケ現キシノウ市長への支持を表明し、A EI他党も統一候補としてのキルトアケ現キシノウ市長を支持するよう呼び掛け。一方、ルプ大統領代行(民主党党首)は、民主党は同党候補者であるブリガ労働社会保障家族相の推薦を取り下げる意向はない旨発言。
- ・6日、キルトアケ現キシノウ市長(自由党所属)は、統一候補者をもってキシノウ市における地方選挙に臨む必要がある旨の呼び掛けにフィラト首相が応じたという事実を歓迎する旨発言。一方、ドドン共産党議員は、ボディウ官房長官の立候補取り下げにより自分がキシノウ市長選挙一次投票で勝利する全ての前提条件が整った旨発言。

その他

- ・3日、ギンブ自由党党首は、連立与党間の大きな差異に基づく問題の存在を指摘、A EIは各党間で閣僚ポストを配分するためのみに結成された旨発言。
- ・3日、共産党は、ウレキャン前「我々のモルドバ」党首は法律で定められた年齢制限を超えているために会計検査院長への就任は違法とし、憲法裁判所に提訴。
- ・4日、フィラト首相は、エフリム法務次官を法務相に任命するための申請をルプ大統領代行に提出。

2. 経済

マクロ経済

- ・5日、モルドバ中央銀行は、今後のインフレ見通しに関して、2011年は8.4%(本年2月時点見通しでは7.9%)、2012年は5.7%(本年2月時点見通しでは4.5%)に修正。

農業

- ・3日、農業食品産業省は、2011年の穀物作付面積に関して、トウモロコシは1万7,100ヘクタール減の39万4,000ヘクタール、ひまわりは6万ヘクタール減の19万ヘクタールとすることが妥当である旨農業生産者に勧告。

3. 外政

▼2～3日、EURONESTの開催(於ブリュッセル)

- ・ルプ大統領代行を団長とするモルドバ議員団は、東方パートナーシップ対象国議員会合(EURONEST)に参加。
- ・3日、ブゼク欧州議会議長は、モルドバが憲法規定に従い大統領を選出し、沿ドニエストル問題が解決されるよう望む旨発言。

- ・3日、ルプ大統領代行は、欧州レベルでの議会間交流であるEURONESTは経済及び政治的安定、社会発展ならびに法治国家連帯の鍵である旨発言。

▼5日、モルドバ・EU協力理事会(於ブリュッセル)

- ・4日、フィラト首相は、モルドバ・EU電子交流フォーラムの開設式に出席、EU加盟の展望が与えられるならばモルドバの再統合プロセスは更に加速する旨発言。
- ・5日、フィラト首相は、ファン＝ロンパイ欧州理事会議長と会談、モルドバ・EU関係、モルドバの国内情勢、欧州統合プロセス等につき協議。ファン＝ロンパイ欧州理事会議長は、フィラト首相の招請により、7月6日にモルドバを訪問する旨発表。フィラト首相は、欧州理事会が5月末までにモルドバ・EU間の深化した包括的FTA創設交渉の開始を許可する予定である旨発表。
- ・5日、フィーレ欧州拡大・欧州近隣諸国政策担当委員は、協力理事会ではモルドバの欧州統合改革のスピードが確認され、EUはパートナー国が明確な目的を有する場合はあらゆる支援の努力を行う用意がある旨発言。

▼その他

- ・30日、ゲルマン外務・欧州統合次官は、モルドバによるIC旅券の発行に関し、IC旅券は沿ドニエストル住民に対しても発給される旨発言。
- ・2日、フィラト首相は、テロ対策に関する国際情勢に鑑み、モルドバ国内の警備強化を命ずる指令を发出。
- ・3日、ゲルマン外務・欧州統合次官は、EUより200万ユーロの無償供与を受け、今夏までにIC旅券の発給装置がモルドバの在外公館に設置される予定と発表。
- ・7日、フィラト首相は、ライチャーク欧州対外活動庁(EEA

S) 露・東部近隣国担当局長と会談、5日に開催されたモルドバ・EU協力理事会の成果、キシノウ市長選挙に関するフィラト首相の決定、モルドバの欧州統合、沿ドニエストル問題等につき協議

4 . 沿ドニエストル

・5日、スミルノフ沿ドニエストル「大統領」は、拘束中のヴァルダニヤン記者に対して恩赦を与える「大統領令」に署名した旨発表。これに対し、ルプ大統領代行は、同記者の解放はドニエストル川両岸の更なる関係悪化を防ぐ前例として歓迎すべきものである旨の声明を発表。フィラト首相は、同記者の

解放は、EUを含む国際社会とモルドバが共に努力した成果であり、現在も拘束中のカザク氏の解放に向けて更に努力する必要がある旨発言。オシポフ前国家再統合問題担当副首相は、同記者の解放は「5+2」公式交渉の再開に向けた好材料となりうる旨発言。

・6日、ルプ大統領代行は、エフティミューOSCE議員会議長と会談、6月にモスクワで開催予定の「5+2」非公式協議後に「5+2」者公式交渉を再開するための条件が国内及び国外で形成されている旨発言。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシノウ」(モルドバ語読み)と標記しています。
(了)